

## 年間第8主日

ルカ 6・39-45

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高神父

今週の水曜日、灰の水曜日から四旬節を迎えようとしています。その四旬節の前の今日の日曜日、福音の主のみことばに心を向け、ふさわしい心でこの四旬節を過ごすことができるように祈りたいと思います。

主は言われます。「だれでも、十分に修行を積み、その師のようになれる」。わたしたちの主、わたしたちの導き手は、唯一主キリストです。その師が教えてくださった道を特別に心を込めて、この四旬節、みあとに従って歩み通したいと思います。わたしたちが主のようになる、主イエスのようになる、ということが目的なのではありません。主イエスが示してくださった、自分の命を捧げてわたしたちを愛してくださる、その愛にならうことによって、わたしたちは少しずつ主に近づいていくことができます。そのような恵みを願って、この四旬節を共に過ごしたいと思います。

その中で、主イエスはわたしたちに、何を見ているか、わたしたちの目のありように注意を向けるように、わたしたちの口がどのようなことを語っているか、そのわたしたちの口に注意を向けるように、今日の福音の中で諭されています。兄弟を導こうとするならば、まず自分の目の中にある丸太を取り除けば、兄弟の目の中にあるおが屑を取り除くことができる、そのように主は言われます。ずいぶん大げさな表現で、「そんなことがあるのかな。わたしの目の中に丸太がある、なんて主が言われますけれども、その丸太はどんな丸太なんですか」、そう言いたくなるようなおことばです。しかし、この主のみことばは、今日の第一朗読で聞いた「シラ書」をはじめとする旧約の知恵、教えの流れに沿って語られたおことばです。そのありそうもないことを強調することによって、わたしたちに訴えかけたいことがより強調されます。

主のおことばにびっくりしながら聞いていると、やがてそのおことばによって、その教えによって、わたしたちの心にぐさりと突き刺さる痛みを感じないはずがありません。わたしたちの普段の生活の中で、お互い同士、人のことはわかるけれども、人のことはとやかく言えるけれども、そう言っている自分は何者なのか、そのような反省をしなければならぬと思います。心の中にある思いが口から出る、そのあなたが語ることばに注意しなさい、そのように主は言っておられます。わたしたちの心の中にある思い、それはわたしたちがそのみあとに従う主イエスのみこころの中にある思いです。

神様の、御父のみこころを受けて十字架の苦しみの道に進みゆかれるイエス

はなんのために苦しまれるのか。わたしたちへの神様の愛を、その生き方において示すために、主は十字架の道に進みゆかれます。そのみあとに従って、わたしのようにになりなさい、主のようになれば十分だ、そのように主は今日もわたしたちに呼びかけておられます。その呼びかけに応えて、この四旬節を特別な思いをこめて、主のみあとに従う者たちとして過ごしてまいりたいと思います。